



就活応援通信 epi.16

面接の長所・短所の伝え方・NGポイント

長所・短所や性格を聞く面接官の意図は？



★客観的に自己分析ができているか

長所や短所を理解し仕事の中で自分の能力を生かし活躍の場を広げたり、克服に向け努力したりできるからです

★募集職種や自社の雰囲気とマッチしているか

募集職種や社風に合っているかを判断します。企業にとって、長所・短所や性格の質問は「経験」や「スキル」と同様に大切な選考基準です。

NG 例 1

結論（長所）を最後に伝える
面接では、話す順番がとても重要です。「私の長所は〇〇です」とまず始めに結論を伝えましょう。

NG 例 2

成果につながるエピソードがない
成果につながったエピソードが重要です。「私の長所は〇〇です。××を心掛けています」と伝えるだけでは信ぴょう性に欠けてしまいます。エピソードは説得力が増し、面接官は「自社に貢献してくれる人材だ」と明確にイメージできる。



NG 例 3

長所のエピソードが「自称」のみ
私には「〇〇力があります」「△△が得意だと自負しています」と伝えるだけでは自分で思い込んでいると捉えられます。しかし、上司や同僚などに言われたことや「××の仕事に任されるようになった」など、客観的な評価をエピソードに盛り込み裏付けを確かなものにしましょう！

NG 例 4

長所なのに自信がなさそうに話す
面接では、内容だけでなく表情や話し方もチェックされています。うつむきがちで小さな声だったり面接官の目を見ずおどおどしていたりすると「自信がないのでは？」と思います。実際に声を出して練習をしたり、話している姿を自分で録画してチェックしてみると良いでしょう。

